

みんなを照らすばあちゃん

たかおか
高岡 希心

私のばあちゃんは、74才というのに、いつも元氣だ。ばあちゃんは、ボランティア活動をしている。地域のおじいちゃん、おばあちゃんを対象に、「お茶の間サロン」を月に3回開いている。

ばあちゃんは、地域の輪を広げるため、また高齢の方を元氣にするため、そのサロンを立ち上げた。

最初は、参加者は数十人だったが、今では地域のおじいちゃん、おばあちゃんがほとんどがサロンに参加するようになった。

サロンの内容は、毎回ちがいがいい、ばあちゃんはそのために、毎日たくさん勉強している。高齢の方でも、楽しめるような、手遊びや、体を使った体そう、また頭を使うなぞなどをしてる。

私も「お茶の間サロン」に参加したことがある。ばあちゃんは、司会をしていて、みんなで笑い合いながら、楽しそうだった。すると、となりのおばあちゃんから話しかけられた。

「あなたのおばあちゃんすごいね、あたし、前までは、引きこもりだったんだけど、お茶の間サロンに行き始めると、社交的になったんだよ。しかも、無料で開いているところも良いところなのよね。あなたのおばあちゃんにとってもお世話になっているの。いつもありがとう。」

私は、その時あらためて、ばあちゃんの、元氣さやすごさを知った。

サロンが終わってからばあちゃんに、地域のおじいちゃん、おばあちゃんのみんなから感謝されていることを伝えてみた。ばあちゃんは、いつもよりもずっと明るい笑顔で話してくれた。

「それはうれしいな、でも、ばあちゃんも、地域のみんなから、元氣をもらってるよ。もちろん孫からもね。」

と言って、いつもの十倍ぐらいの力で、私をだきしめてきた。

「例えば、お茶の間サロンが終わったら、今日も楽しかったです、とか言ってくれたり、いつもお世話になっているのでおかしの差し入れです、とかはげまされたり、あと、みんなの楽しそうな笑顔を見るのが、一番元氣が出るのよ。」

私は、その時、また新しいことに氣がついた。ばあちゃんは周りの人を元氣づけるだけでなく、自分自身も周りの人に元氣づけられていることに氣がついた。

人を元氣にできるばあちゃん。そして、自分自身も元氣づけられているばあちゃん。家族、地域の人、それからもっともっとたくさんの人たちを元氣にしてくれて、「ばあちゃん、いつもありがとう。」